

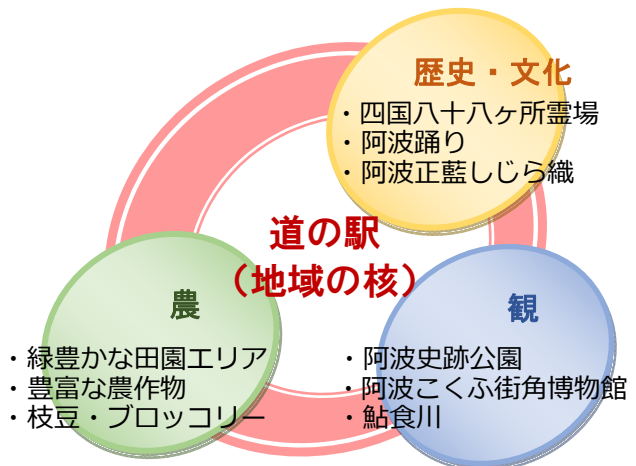
施設計画のコンセプト

1 地域振興施設整備の目的

1.1 整備の目的

国府地区は徳島南環状道路の開通に伴い、大幅な交通量の増加が予想され、生産と需要を結びつけた都市と農村の交流による流通ルートの多様化が期待できるとともに、地元ブランドの確立、地産地消の展開、及びこれらによる地域経済・雇用の活性化・観光客の誘致にも期待できる。

本計画においては、当該地区の特色を踏まえ、地域振興施設が「観光」「歴史・文化」「農業」という異なるコンテンツを結びつける役割を果たす核となり、地域振興施設があらゆる人々との交流を通じて、地域に新鮮な風を呼び込むとともに、まちづくりの意識向上を図り、新しい魅力を創出することで、地域活性化と観光振興の拠点となる施設整備を目指す。



1.2 整備の必要性

(1) 道路休憩施設の不足

道路利用者、特に遠方からの観光客にとって、疲労回復や生理現象解消のために、定期的な休憩が必要不可欠である。徳島市には現在、これらの方々が 24 時間気軽に利用出来る駐車場や公衆トイレが整備されておらず、道路利用の利便性や安全性を向上させるため、安心してくつろげる質の高い休憩の場の設置が求められている。

また、四国霊場開創 1200 年を迎え、お遍路が注目されており、巡拝者も増加していることなど、本市に来訪する方々をおもてなしの心で温かく迎える場が必要である。

(2) 地域産業の活性化・振興拠点

近年、「食」をテーマとした地域活性化が盛んに行われており、各地で特産品の付加価値向上を図るため、農林水産業をはじめ、商業・工業とも連携し 6 次産業化に向けた取り組みが行われている。

持続可能な地域振興を図る上で、特産品については地域の魅力を商品化に活かし、ブランド商品の創出によって地域の魅力を高める好循環を生み出す必要があり、その商品開発や販売などの中心的役割を果たす拠点の整備が必要になっている。

(3) 地域情報の発信拠点づくり

はじめてそのまちを訪れた人が、その地域の様子や情報を知りたくても、徳島市の中心地に道路利用者や観光客が気軽に立ち寄れる案内所がなく、そのまちの魅力を知らずに通り過ぎていく人が多いと考えられる。

そうした方々に対し、当該地区の魅力ある歴史や生活、文化、ひいては市域全域のイベント情報などを紹介する「いつでも、誰でも、気軽に立ち寄れる」案内所が必要である。

また、観光情報ばかりでなく、まちづくりを支援していただく人などに向け、移住に関する情報など地域振興を促進するため、様々な情報を紹介する総合案内所が必要である。

(4) 安心・安全なまちの防災拠点づくり

東南海・南海地震発生が危惧されているなかで、地域振興施設は防災拠点としても地域住民の安全確保の役割を担うものであり、災害時の道路通行者の避難所、通行止めその他の災害情報の収集場所としての役割が求められており、設備・情報・人材・物資の集積等の機能を備えた施設整備が求められている。

2 地域振興整備の基本コンセプト

2.1 整備の方針

国府地区は、緑豊かな田園風景を背景に、四国八十八ヶ所霊場を有するなど歴史と文化を合わせ持つ特徴的な地域である。

今回計画する道の駅は、国府地区の魅力を浮き彫りにする独自のコンセプトにより、地域の素晴らしさを理解してもらい、人々に喜びを与える「まちの顔」となる施設を目指す。

また、徳島市で初の道の駅整備となることから、都市住民と地元住民が触れ合う交流の場として生活の質の向上に努め、当該地域や市の新たな魅力の創造や誇りに繋がるシンボルとして整備することを基本とする。

2.2 整備コンセプト

地域振興施設の整備における基本コンセプトに求められる5つの要素を整理する。

【5つの要素】

- ① **地域の活性化拠点・賑わいの創出**
 - ・地域住民の主体的な取り組みにより、豊かな生活を実現する活性化拠点
- ② **農作物の恵みを通じた地域住民、都市住民との交流**
 - ・都市住民へ地元産業・農産物等をPRできる施設整備と情報提供の場の提供
- ③ **お遍路や観光客に対するおもてなしの空間整備**
 - ・田園風景の穏やかな景観を活かした温かいおもてなしの場の提供
- ④ **気付き・学びの場**
 - ・新しい取り組みを促すキッカケとなる地域住民のたまり場となる施設の実現
- ⑤ **新たな観光スポットの創出**
 - ・当該地域と徳島市の魅力を活かした、オリジナリティある事業展開

上記を踏まえ、コンセプトを以下のように設定する。

「道の駅で食べ・遊ぼう！」～農業・観光・交流を核とした地域活性化～